

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 12 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370590

研究課題名(和文) 南米日系人のトランスナショナルな移動と移民言語としての日本語の維持・変容

研究課題名(英文) Transnational immigration of Latin-American Nikkei and the language maintenance and change of Japanese as the immigrant language

研究代表者

中東 靖恵 (NAKATO, Yasue)

岡山大学・社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：90314658

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：1990年代以後激化した「デカセギ」により生じたトランスナショナルな移動という南米日系人の新たな居住スタイルにより、移民言語としての日本語のあり方も変わりつつある。戦前移民を中心とするブラジルではすでに言語シフトが完了し、戦後移民を中心とするパラグアイでは日本語がまだ生活言語として維持されており、来日後の地域社会における言語生活や日本人住民との関係性、日本語教育の必要性などの点でも両者が異なっていることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The new residence style, transnational immigration, of Latin-American Nikkei caused by "dekasegi" after the 1990s changes Japanese as the immigrant language. In Brazil centered on the pre-war immigrants language shift is already completed, whereas Japanese is still maintained in everyday life in Paraguay centered on the post-war immigrants. This study reveals that the difference of use of Japanese in each Nikkei community between Brazil and Paraguay reflects the difference between them in terms of their language life, the relationship with Japanese residents in the community and the need of Japanese education after the visit to Japan.

研究分野：社会言語学

キーワード：南米日系人 日系移民社会 移民言語 ブラジル パラグアイ 言語維持 日本語教育 国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

かつて多くの日本人が海外へ集団移住を行ったが、とりわけ南米諸国には日本人移民とその家族が多く暮らし、地域により様ではないが、生活言語として日本語が今でも使用されている。日系社会における日本語は、ホスト社会の言語との接触により変容しながらも、家庭内や日本語学校での日本語教育を通じ、日系コミュニティ内の共通語として維持され、移民社会のネットワークを保持する大きな役割を担ってきた。だが、日系人の世代交代により日本語の衰退は確実に進んでおり、日系子弟への日本語教育のあり方も変わらざるをえない状況にある。

南米日系移民社会における日本語の役割や日系子弟に対する日本語教育を行う意義が問われる中、近年のアニメやマンガなど日本のサブカルチャーを中心とする日本文化への興味から、非日系人を中心として起こった日本語への関心の高まりは、「継承語」から「外国語」としての日本語教育へという大きなパラダイムシフトの源流となり、日系社会における日本語教育が目指すべき新たな方向性の一つとして位置付けられることとなった。

一方、1990年代以降激化した「デカセギ」による南米日系人の日本への還流現象と、長引く経済不況による日本への長期滞在化・定住化、そして、南米と日本を行き交う南米日系人のトランスナショナルな移動を伴う居住形態は、日本との関係性に変化をもたらすとともに、日系社会における日本語の位置づけや日本語教育のあり方にも新たな視座を与えつつある。デカセギによる日本との新たな関係性の構築と「日本の日本語」との接触は、日系人の日本語能力の維持・向上を助けるだけでなく、移民言語としての日本語に新たな言語変化・言語変容をもたらしている。そして、南米日系コミュニティ内の共通語である日本語は、日本とのネットワーク形成・保持を行うための言語ツールという新たな役割をも担うようになってきていると考えられるが、その実態はまだ明らかにされていない。

2. 研究の目的

本研究のテーマは「南米日系人のトランスナショナルな移動と移民言語としての日本語の維持・変容」である。南米日系移民社会における日本語のあり方と日系子弟に対する日本語教育は、「デカセギ」による日本への還流現象、すなわち南米日系人のトランスナショナルな移動により新たな局面を迎えている。

南米と日本を行き交う南米日系人の居住形態が、移民言語としての日本語の維持・変容にどのように関わり影響を与えているのかについて、ブラジルとパラグアイを取り上

げ実態調査を行い、南米日系移民社会における日本語教育のあり方について考えたい。

3. 研究の方法

(1) 文献調査

南米日系社会における移民言語としての日本語の維持・変容に関わる歴史的・社会的要因を探る手がかりとして、以下の観点から資料収集を行い、日系社会における日本語と日本語教育の位置付けを明らかにする。

1. 日本人の集団移住に関する歴史的経緯に関する文献資料
2. 日系社会に関して記した種々の統計資料
3. 日系社会における日本語教育に関する資料

(2) フィールド調査

移民言語としての日本語の維持・変容の実態とそれに関わる言語環境を明らかにするために、以下の観点から資料収集を行う。

1. トランスナショナルな移動の実態
2. 言語生活の実態

以上の調査に関しては、南米日系移民社会の中でも特徴を異にするブラジルとパラグアイを比較対照しながら行う。

4. 研究成果

南米日系人のトランスナショナルな移動という1990年代以後の「デカセギ」による日本への還流現象により生じた新たな居住スタイルは、南米日系移民社会における移民言語としての日本語のあり方や日系子弟への日本語教育にも変化を及ぼしている。だが、同じ南米日系移民社会であってもその状況は国や地域により異なる。

戦前移民を中心とし移住の歴史が古く、日系人口が多く地理的にも拡散しているブラジル日系社会では日本語からポルトガル語への言語シフトが完了し移民言語としての日本語の維持が難しい一方で、戦後移住者を中心に形成され移住の歴史が比較的新しく、日系人口もそれほど多くなく地理的にもあまり拡散していないパラグアイ日系社会では、スペイン語への言語シフトが進行しつつあるものの日本語がまだ生活言語として維持されている。

とりわけ1980年代以後、南米と日本との人的交流や日本語教育支援が盛んになったが、移民言語としての日本語が維持されているパラグアイでは「日本の日本語」との接触により、日系社会における日本語に大きな変容をもたらしたが、すでにポルトガル語への言語シフトが完了しているブラジルでは、日本語の維持・継承にそれほど大きな効果はもたらされなかった。

このような2つの日系コミュニティにおける日本語のあり方の違いは日系子弟への日本語教育のあり方の違いをもたらすととも

に、デカセギ還流現象に伴い来日した後も、日本の地域社会における言語生活や日本人住民との関係性、日本語教育の必要性などの点でも異なっていることが明らかとなった。

すでに日常生活レベルでの日本語能力を維持している日系パラグアイ人は、パラグアイ人同士のネットワークも大切にしながら日本人住民とも円滑な地域生活を営み、来日後の日本語教育もさほど必要としない傾向にあるが、日系ブラジル人は来日後に十分な日本語能力を身に付けず、地域住民とも接触が少ないため日本語を日常生活で使用することもなくブラジル人同士で集住する傾向にある。

このような日本語能力が十分でない外国人を地域住民としてどのように受け入れていくのか、その一つの試みとして、研究代表者が暮らす岡山県内で最もブラジル人比率の高い総社市において、ブラジル人を対象に言語生活および日本語学習支援調査を行い、その結果を踏まえ、地域日本語教育を市の施策として位置付け、行政システムの一環として機能させる仕組み作りを行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

中東靖恵「岡山県総社市に暮らすブラジル人住民の言語生活 外国人住民の日本語学習支援を考える」『社会言語科学』17-1, pp.36-48, 2014年 [査読有]

中東靖恵「ブラジル語と日本語 日系人のことば」『日本語学』33-1, pp.86-95, 2014年, 明治書院, [査読無]

[学会発表](計19件)

中東靖恵「行政と取り組む地域日本語教育の実践と課題 総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業を例に」呉市日本語ボランティアステップアップ研修会, 2016年3月26日, 呉市教育委員会

中東靖恵「国内・海外における日本語の多様な姿」放送大学・県立図書館連携講座, 2015年11月21日, 岡山県立図書館

中東靖恵「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業における実践と課題」文化庁日本語教育研究協議会(中国・四国・九州・沖縄ブロック), 2015年10月24日, 福岡朝日ビル

中東靖恵「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業の実践」文化庁日本語教育研究協議会(中国・四国・九州・沖縄ブロック), 2015年10月24日, 福岡朝日ビル

中東靖恵「平成26年度総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業における取組と展開」文化庁日本語教育研究協議会(東海・近畿ブロック)2015年10月3日, エル・おおさか

中東靖恵「総社市における地域参加型生活サポート日本語教育事業の取り組み」文化庁日本語教育研究協議会(東海・近畿ブロック), 2015年10月3日, エル・おおさか

中東靖恵「総社市日本語教育事業における日本語学習教材の作成とその実践」文化庁日本語教育大会第一分科会, 2015年8月29日, 昭和女子大学

中東靖恵「総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業 行政と取り組む地域日本語教育の実践」文化庁日本語教育大会ポスターセッション, 2015年8月29日, 昭和女子大学

中東靖恵「総社市における地域日本語教育の実践: 総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業」文化庁日本語教育大会, 2015年8月28日, 昭和女子大学

中東靖恵「行政と共に作る地域日本語教室 総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業」江田島市外国人市民交流推進協議会, 2015年8月3日, 江田島市役所

中東靖恵「ブラジルの日系移民と移民社会のことば」岡山大学文学部プロジェクト研究「貧困とマイノリティ/マージナリティ: 人文・社会諸科学による学際的アプローチ」研究会, 2015年7月24日, 岡山大学文学部

中東靖恵「行政と共に作る日本語教室 立ち上げからの取組みを通して」ひょうご国際交流団体連絡協議会分野別セミナー, 2015年6月5日, 兵庫県国際交流協会

中東靖恵「地域のことばとことばの変化」放送大学・県立図書館連携講座, 2015年1月10日(土), 岡山県立図書館

中東靖恵「平成25年度総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業の概要」文化庁日本語教育研究協議会, 2014年10月25日, 大阪・梅田センタービル

中東靖恵「パラグアイ日系移民社会における言語ソフト」SYDNEY-ICJLE 日本語教育国際研究大会, 2014年7月12日, シドニー工科大学(オーストラリア)

中東靖恵「南米日系移民社会における日本語の維持と衰退 ブラジル日系社会とパ

ラグアイ日系社会における日本語の位置
」日本語教育学会研究集会平成 26 年度
第 1 回研究発表会，2014 年 6 月 15 日，鹿
児島大学

中東靖恵「平成 24 年度総社市地域参加型
生活サポート日本語教育事業の概要」文化
庁日本語教育研究協議会，2013 年 11 月 2
日，大阪・梅田センタービル

中東靖恵「ブラジル・パラグアイの広島県
人家族における方言アクセントの継承と
変容」第 11 回都市言語研究国際セミナー
(Urban Language Seminar 11)，2013 年 8
月 18 日，広島市文化交流会館

中東靖恵「総社市地域参加型生活サポート
日本語教育事業の現状と課題」香川にほん
ごネット研究集会，2013 年 7 月 15 日，香
川国際交流会館

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕
なし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中東 靖恵 (NAKATO, Yasue)
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准
教授
研究者番号：9 0 3 1 4 6 5 8

(2) 研究分担者

該当者なし。

(3) 連携研究者

該当者なし。